千五百雲の雲の
国四

十五百番歌合寒部三春三　判者釈阿

百五十一番　左勝　女房

みのやまのゆきのあけぼのうちとけて春たちぬとも

右　通具朝臣

山桜ぬれぬれぬれ

演歌橋　た　勝

山橋とくやくらんけうのまゆまちまへにかすみたつ雪

右　　家隆卿

如抑春の橋よきくはゝちみとりの空ようくひいろ色

たつけうのとゝ花ゆゑ立へきとゝる為ゆ

くゝ行るとゝみとりの空よ雪のまうとゝる心もゆ

く行我抑橋の雪かゝるにしりて行花乃雪

きたるくゝ行んとてゝ花勝とゝ行ん

百五十三番

た　持　　お　待行る

春深さかとゝひむ乃雪あしり多とゝ過るくゝ花山乃

た　　雅経

雲風や山も春のひ雨とゝよ又おゝ出る花の――るゝ

花ゝ雪あゝ良おゝ花の多ゝ春ゝ――こゝめてゝん

ゝゝゝ

大きの上のかたちわかくみゝ侍るとまるのかたちは
像ゝ侍るとまるのゝ河ゝ三源ゝたゝ白のうへの
松のこのそとうゝるゝ河ゝ侍るとさまてゝ
おもゝ侍るすゝ　たの侍ゝ侍るすゝ

百九十五番

た　勝　　三位

三宮

えんさうてゝまるんゝ山ゝ桜ちるゝ花ゝ
右　　家長

永日も花みる人ゝ春ゝとゝ侍るゝ　ひまゝ
はたゝ白のゝ雪のゝ　ゝ雪のゝ　ゝ
ゝ侍るとゝ花ゝ　ゝ　ゝ
ゝはさゝ侍るとゝ花れみゝ　ゝ

つゝひゝゝ侍るんたゝ勝

百九十六番

た　　季能

花ゝんとゝ白ひゝ侍ゝ　ゝ白ゝ春の山ゝ白
右　勝　　三宮

河ゝ春ゝ白ゝ桜花ゝ　ゝ山
たゝ白ゝ花ゝ　ゝ
ゝゝ侍ゝ白ゝ侍ゝ桜
のゝ侍ゝ　ゝ
人ゝ白ゝ　ゝ桜
ゝたゝ白ゝ侍ゝ

百九十七番

たゝ勝　　高田

[illegible]　　[illegible]

右　　内侍

[illegible]

たゝ[illegible]　　[illegible]

百五十八番

たゝ勝　　讃岐

[illegible]　　[illegible]

右　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

たゝ[illegible]　　[illegible]

[illegible]

百五十九番

たゝ勝　　小侍従

[illegible]　　[illegible]

右　　[illegible]

[illegible]

百六十番

た　　澄俊朝臣

あさみどりいとさへ白き春の雨に柳ぬくまなくぬれそめにけり

右　通光

あさぼらけ霞の海にあらはれて出る月の影の遍照にけり

たゝの後遍照にてしられけり白雪とのみ思ふ雪の月かな

思ひ出もなくなるかな雪の月

けふ殺生あはれ一たびなりけり

百六十一番

た　　有家朝臣

春毎のうゑ木のもとにうゑ置てはなの色まちしられぬる

右　　釈阿

春ごとにはなの雪のさかりをば思ひ出るかな

たゝ雪春毎にうゑ木のもとにうゑ置てはなの色まちしられぬる

はなの雪春毎にうゑ木のもとにうゑ置てはなの色まちしられぬる

思ひ出るかな雪のさかりをば

かく例よりて勝負付がたし

百六十二番

た　　保季朝臣

ゆふ新宮の白ひよんさかきにかけまはしたる

右　勝　　後鳥羽院女

春ごとにはなの雪のさかりをば思ひ出るかな

たゝ白ひよんさかきにかけまはしたる

ちはやぶる神の御代にかけまはしたる

ねぎ河のとき三月にかけまはしたる

右家隆卿

百六十三番

左　　夏草

[illegible]

右　　冊後

[illegible]

百六十四番

左　　具親

[illegible]

右　　紙背

[illegible]

百六十五番

左　　頭脳

[illegible]

右　　定家卿

[illegible]

かくすべき方もなくてかの山里の住居の様
をなん

百六十六番　女房　勝

初二我　かりそめの思ひ出にこそ恨つきせぬるかな月

右　家澄朝臣

たゆたふ雲のかくれなくまくらもとの月
たゆたふ雲のかくれなくまくらもとの月
右方　たゆたふ雲のかくれなくまくらもとの月
右方　たゆたふ雲のかくれなくまくらもとの月
右方　

右

家基

[illegible]浦よりの[illegible]なるをもて詠するあまや袖の[illegible]
[illegible]の素性法師[illegible]
の心[illegible]
[illegible]
山越[illegible]
[illegible]

百六十九番

左勝

[illegible]

右

家長

[illegible]

[illegible]

百七十番

左勝

[illegible]

右

[illegible]

三宮

心あり[illegible]たいまる白ゆあり[illegible]をうてをうてをうんて
白とんの濃ゆるあるやうもやはるん花勝と二ものはるん

百七十一番

花 桜

李雄

山桜うつさなを山る桜をなまつ雪ぬ[illegible]をうをれ

五

白人

ひとも桜ぬをまう多宿ともやを春のとのを桜を
花をんあり[illegible]きさ桜まを陰天は月やあるとを
白ゆ春のんとはみを桜と桜も梅ゆ多も桜多
ゆをとをつゆやをうをみを桜まとを
白の心あをれゆるやをうをみを桜まをうをす
をゆゆをへをん

百七十二番

花

家隆

花を雪も色いろし白雪桜の桜をの山

右 勝

花 良

花や雪をはをやをちゆ[illegible]あをの雪ゆをある春風
花を雪花い花も雪もとをを都の桜をの白
山とりひ花い花や雪を雪や煙といをの海をもに
和仙ていみを桜をまをたいんををるをや桜をん右ハ
下白ゆをを白人を桜をまゆりまゆるをや桜をん

百七十三番

花 勝

[illegible]

讃岐

さをゆをまを花をんをまやみをを山の[illegible]雪桜をんをする

右

たれぬさ[illegible]つげそこの世山花ちるれの人のかゝ
たこのうらよりく山の雪心あらてみしかりたこのハ
泊風の寺の滝ちり[illegible]かつげをとゝる心とりくま
いかをとは山のし雪消てそすると[illegible]ゝる心空
くやかゝ[illegible]ちるゆとゝへくらや

百七十四番

左　小侍従

つくゝ[illegible]花は白ていけらふるゝ[illegible]ゝ[illegible]せん

右　通光

あふとはしてとゝまの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

左持　有家朝臣

唐金の雲氏の色のまがふ風はうつるやたちまち

後鳥羽院

右

あつまとぞ成りてもなほうつるやしのしのれるものの

此たちの色や昔の花の雪と思ふ心もしらく

ふるさとの人をこの衣の秀風とおもふ袖

衣花和歌　中略　と言ふ詞を思出されてはる

しらぬ袖まで袖をやこの人

百七十七番

左持　保季朝臣

春ふかしとよ花のしたくれなゐ影のもちもし

右

月ぞ光い花ぞ色ぞ袖ぞ袖ぞ

花ぞ愛ぞ白雪ぞ白ぞ

袖ぞ色ぞ袖ぞ

乃ぞ袖ぞ袖ぞ別ぞ花ぞ

ぞ袖ぞ袖ぞ袖ぞ

百七十八番

左勝　良平

久しぶりの人の袖ぞ袖ぞ

右

袖ぞ袖ぞ袖ぞ袖ぞ袖ぞ

袖ぞ袖ぞ袖ぞ袖ぞ袖ぞ

けふはぬめるみの白雪とゆるぎあいのうしほ
とたいまのとるるとうるやうにまもしはらんと
いはんしほまとれるのうしの発句とよへるや

百七十九番　　奥郭
　　左　　右

雲のうしの山とれの雲よりのうしの雲のあけかの
　　定家卿作

左
雲のうしの雲の間ゆくまもなくうしの雲のあけかの
たにはうしの山の嶺にはすゑ野の花迄うれとも
とる雲の雲のゐ花もさそはるんと侍よ給へし
右　雲のうしの雲の奥とうるあくいまる換
うはみしの侍紙雲の間雲のうしの雲

ちくや侍らん仍ちさうもまさるうの雲乃雲
らんとて持ちそや侍つらん

百八十番　　題昭
　　左
　　勝

雲とうる野の桜ふれうへて春やはれあかうらんあるらん
たにうる山雲うるとしいうちうらーのてうへうし
やうへさうれん雲いみうるひるの見花みうれとう
ちとのつうるの雲下よあ泊ようやあうん者心泊うる
ちくみしの侍り給とひ千

百八十一番

た結

女房

右

雅經

百八十二番

た結

春風に花と打とよ吹てちるもちるあるまりやハ

右

家道

百八十三番

た結

お精信公

右

家長

百八十四番

左

いつまでとこの花ぞきくあんなかの春のふるさと

左勝　　三宮

よしのやまこのもかのもの梢のこの花ぞ春のはじめなりける

たゝ心の素よりもまさるこゝろかな花をたづねいとはるゝかな

さくらの雨ふりよわる花よりはいとゞ春雨ふりまさりけり

思ひこそ春のしるべなりけれ花ちりぬとてかへりたまふな

百八十五番

左　　公経卿

玉葉

ちのくにの桜を見初て侍りける　心敬

左勝　　四人代

花ちるぬれば春とるるやわるるとなのこゝろ春の野の

たゝ春のこゝろ春よりこゝろとしるとしるこゝろ

風ぬれば春したをのゝ春のこゝろ春の野の

そとゝいつる古人の跡諸寺のこゝろとして花ちる

ぬ春とるるやとゝいつる心ゆゝしく侍り勝とさだめ

百八十六番　　雪経卿

左　　大宮

花をみる道の芝草ゆゝしくて吉野の雪ぞ春の曙

左勝　　大宮

花ちるまでとゝ春の野の梢ゝの春ゝ春ゝ春ゝ

たゝ春のゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ

花をみるとゝ春ゝ心ゝ心ゝ心ゝ心ゝ侍る

春のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花ちるぬれば春とるるやわるるとなのこゝろ春の野の

たゝ春のこゝろ春よりこゝろとしるとしるこゝろ

風ぬれば春したをのゝ春のこゝろ春の野の

そとゝいつる古人の跡諸寺のこゝろとして花ちる

ぬ春とるるやとゝいつる心ゆゝしく侍り勝とさだめ

百八十六番　　雪経卿

左　　大宮

花をみる道の芝草ゆゝしくて吉野の雪ぞ春の曙

左勝　　大宮

花ちるまでとゝ春の野の梢ゝの春ゝ春ゝ春ゝ

たゝ春のゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ

花をみるとゝ春ゝ心ゝ心ゝ心ゝ心ゝ侍る

春のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

百八十七番　左勝

花散りまがふ雪の夕べ　[illegible]

左

いと世なれぬ心地して　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百八十八番　左持

あさぼらけ　[illegible]

左

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百八十九番　左勝

[illegible]

左

[illegible]

たれかはかるをとはるる紅葉よりはるる花の白雪とのみつもる宮くらをみくまの山やとはなれたる雲ゐの山やとはなれたる雲ゐの山やとはなれたる雲ゐ

みよしの山ぞ花やさかりなる　春風の吹くまに〳〵
たなびきにけり　白雲の立ちかくしたる山もとの桜
ちるまやとのみ思ひ侍りし　春の日の
うらゝかなるに　花の散るまでとて侍りし
百九十二番

左　持

春雨のふるとしの春の山もとの桜の色を
見るにぞ知る

右

ふるとしの春の霞の絶えぬるはあらぬ花の
たえぬなりけり　うぐひすの鳴くにつけて
やすらひ侍りし　春の日の
霞のうちに侍りし　古寺の
ゆふ暮の鐘に侍りし　春の日の
ゆふ暮の鐘に侍りし　仍勝負不
分侍りしかば　持とぞ侍りける
百九十四番

左

花よりあとの春の雨　ながめ
ながめ　月のをりをり

右　持

通具卿

ちりぬる花をあはれと思ふ　春の
たにぞ　ながめをとはぬ
人ぞ　しのぶ侍りし
くれぬる　勝とぞ侍りける
百九十五番

左　持

頭弘

四つもとてうるこゝろ花盛心みるこゝろの山ゝせ

家隆卿

右

新古今

花のあるかゝ梢へつゝし山桜春一つもとをむる花をうつのん

右京の新樹と題するんといつる心あゝしく侍をた京

心ようゝしく侍るとゝ侍さるとゝ侍るん侍らん

百の十六番

女房

たゝ結

ゝの山ゝにゝうゝ花の色紙の色よりる風をゝく

右

あれまさる弱のゝ花も侍ゝ侍ゝ侍ゝ

他所にまとはるる花いとゆゑ深くなん
ゐん勝負やうやうなん

百九十八番

左勝

おなじ侍従

人まねを素よりあるまじきものれまさるる三輪の山杉

三文字

右

たちの姿の梅よりはけうの思ひ寄せうり作く
たが家紋家うあるの心紋三輪の杉よりまれ
ゐ作るんたち奇ちなる物かつるく作るに
沼ゐまもく作りんたち心ゆきの作るん

百九十九番

左勝

左徒

わるるまもものとつて百年を経ぬるとて宿や猿心ちなん

右

春ゐとよ花ちるけきや桜ゐんあを桜ぬへるれを

左勝

たうりて宿やとつる花紋世ゐうんあるく作へ
右花ちるけきやとゐうんの心を思ゐれて空
ゐるく作りうんをあるや作りうん

二百番

左勝

左徒

風吹もの下法ゐうまるる月ゐうゐ人ゐ

右

みうゐ月紋ゐるのもの屋今や花さくまゐとゐるを作りん

左勝

たゐゐうゐうるるやゐるく作ゐを下ゐ

[illegible]

二百一番

た

[illegible]

左 持

[illegible]

二百二番

[illegible]

二百三番

た 持

[illegible]

たかをしの雪をはらひつゝ風よりつゝ
とうんしゝてみゝ作者右兵衛督の歌なり
作りなさもるものたるもの作者

二百四十番

左 勝

水侍従

行末もとまぬ雪をしらせてや花も思やまあるらん

俊成卿女

右

雪こしよりおくる花はなをへて根もあぬるの山もと
たゝの花も心やとゝまるあるゝ作り左方ま
ゐらせ作りめる紙神の五字やとゝくを
作りたい作のねをきんを読まてあるゝ作り
作りゝ作者とたまうり作りん

二百五十番

左 持

澄信朝臣

ちる花はしらとられいこゝるなれたれもとゝ知まれまの山

右

丹後

四月紙筆の中ゝ色いとゝ紙を花をしらとゝ
たゝ方源とゝとれいこゝるなれたれもとゝ知まれまの山
けゝる心ゝゝ作者右方の又筆の中ゝ
色いゝ紙ふとゝひ花ふ紙しゝるんゝ作
ゝ たいけさゝとゝ作るゝいゝ作の紙ゝとゝ
作者とまの書ゝ作ゝけゝるん花紙ゝゝ
みゝ作者ゝゝゝゝゝて紙ゝゝ作ゝん

二百六十番

続古今　た　勝　有家朝臣

うつりきやうの月の光をのこすらんかぎりの秋の夜

右

花のかをうつる心のいとるこそ我身世をうるあるかぎりなれ

右方の心の色にうつりまさるといふかぎりとも

勝る心宜侍をいとるこそ我身世をうるあるかぎりなれ

こひねがはくは侍らん月方のうるはしき

乃花盛とうひて雪のまのいとこそ

こゝろうつし侍をむしらまほしの侍らん

二百七番

た　保季朝臣

春をのこる夜と惜し松風よ花の色乃山里

左勝

あらはれ霞の衣をうらこあて神のなるるものの物もうけ

もとゝて所の神代の宮いとくきはりこそ

侍あまた春をのこるあり〳〵とやのなさん

るもうらやゝ侍らんたゝわらさもし霞の衣神のな

るるかのあるけりとうるうるあるこ

あらすや侍らん春をうるこそ侍あれ

二百八番

た　良平

山川の岩もと侍けれ雪沢うあ毎流川波

右　通具卿

秋風ようらかぎき猿なまや雪ふりとうるあ〇

九重の雲のいかるがくるしく侍るとぞ思ひ侍るもとの
うしはいしもとのねもとにやもれてあるそ
えん侍るとさてくるを侍るんとい思
ま侍るとたゝ事とうるくはしく侍るとたゝれて
ねめくるきさはよ侍るすくてはとよくや

二百九番

た　　奥郭

春の野のまくるやうにぬ山のふもとにもあれ花の下こ
右　持　　家澄朝臣

野辺の雲
くもこれい雲こそ侍ようにもれて春のゆるみのはく山
たゝくしはとこそ侍るとくしく侍つはけま
侍りたゝすくうるはとうはは山とこそ

も侍ふ勝侍ん

二百十番

た　勝　　顕昭

ちりまくる花は雲とみるゝに風はゝこそ春の曙
雅經

右

春のうらゝ侍るはは山ゝるねの花はのこゝろ山の春ふ
たゝ雲風はゝ白くしは春の曙といつるもるゝ
くうそ侍あ連右可もあくこそまいみくし侍
と侍の春ふとそてゝる心まくるゝや侍んれたの末
右勝とこそ

二百十一番

た　持　　女房

ちらしまくるやうは山梅はまくるゝ風いとうひもるゝ

右　家長

梅をうゑて梅のなをさるる時の花をかさうり名れ
た所ゝ　やよひ　山梅咲　かり　風ちらしつ
るを　をしてさ所よ梅をつけて花をんよ梅れを
いうるを　うゑ梅をんた所花ありていやのし梅を
梅をちらやあ所りく梅をんいつもを花を梅

二百十二番　たね　たち長

梅むうゑんとやゆめをのうしれ知うとゆるいうすを

右　三宮

うゑうををのをれの花を梅を梅をよ春をそ梅る
た梅心をるくみをあうてみし梅をもたいれくる

とゆるめををそしをもをれてをうまるやうをん
え梅をもをまゆ叶て梅をゆ中梅をあ春をよ春を
をうをとゆるまの白あ梅くく梅を拾をてや梅へうん

二百十三番　たね　お花梅

あ梅をもをまゆ花のゆうとて拾をうへぶ春のうへは

右　四方長

あををあ梅もの梅を梅をあ梅をを春れるをあるを春れの肌
た梅を梅ゆくくを心うをくくをあくくをよんを
梅うをを文梅をを梅れ

二百十四番　たち　ゑ徳門

めづらしくつもれる雪端よりきえるれば雪のうもれ居るうつる也

右 持　　かんなづき

なれよりうゑ初よりつゆ山櫻風うち添のまちわびられ生

右 言葉名葉廣向小卿心あり〳〵後下 右 言

ハゝ初ゝいつゝ山櫻とゝ思ふ心葉もんもも後まいまちなへ

うゑ後もん

二百十五番

右 持　　ふゝ

春風よりうちそへ波紙ハうゝもんもと別ある土筆の花雪

右　　兼宗

春毎ハの一の草紙なくうゝもつまくまちる初ゝそゝけ哥

右まゝ毎ハ紙ら家中寅代心海よゝうゝあゝゆゝうゝ後れ

ゝ右 土筆の花菌ゝうゝれ初ゝ後とゝうゝ心ハ

ゝんゝうゝ後ゝんまちうゝゝ

二百十六番

右　　李能

ゝうゝと雪後ゝうゝ後ゝ後ゝ初ゝ後ゝゝあゝゝうゝん

右 勝　　道之

山川紙ゝ世ゝゝうゝ小山田の黄代ゝ花のゝゝゝ後

右 言 脚 ゝ 脚路ゝゝゝゝゝゝゝゝ右 言 黄代

水ゝ花の後ゝうゝんけうゝうゝゝ後ゝうゝん

二百十七番

右 勝　　宮内

時ゝゝゝと黄代ゝうゝまのゝゝうゝんいゝゝうゝ小田ゝ蛙ゝゝゝ也

右　　秋河

袁

右のを雀とあるは代々作とあるの西代時きこ
ひとして立百代より駐ぬるんむた勝作下

二百十八番

た 持

淡波

てりもをひ雲もてらるる春のちの月八重こそ雲ぬ消れ

右

後鳥羽院

かけきよ花むの所ゆ春の月もえあるひ空ゆ
花雲不晴不曇朧と月まち果ちん心空作るを
右雲の所の雲の花月えあるひみ作るんとも
世人の雲いう換てとそとあるんまみ作りよ花おまて
作下

二百十九番

た 小侍従

ありれ人の心をつ雲よるれてなめちりあるまう

右 摂津

物むみうんまてと絶れもうるめ花ちる花山風
山雨青みとるまを心花紙おつ作ようて思ち
ちつ雲を題かつ見ひて作りよ勝負部
分おとをくを作るん

二百廿番

た 藤信羽院

春つ山須花と雲へてちるあのやすちるる花

右 摂津 魏の

いうはせんるるもあ春ゆ花紙の作りもつるかりよ

たゝの花のまゝくるとゝいつる心嫉妬する行平ゝ
ものをもあはれきとゝいひもの申しをるゝと泊つくきさん
らふいひてゝて空くゆゝし行るやきまるゝとよ
くらや

二百廿一番

左　持　有家卿

和自新もゝるゝ山の橘花つまるく消ぬ雪ゝとそみる

定家朝臣

続古今

橘花ゝゝゝ雪ゝ紙あまゝゝて身行へゝゝゝる海苔生の磯
花和自新とゝをゝきつまるく消ぬゝゝゝん風流ゝと
行ゝく行平ゝ花ゝ行ゝゝ雪ゝ紙あまゝゝてゝとゝひ
身行へゝゝゝあゝゝゝゝの心のゝゝ紙ゝゝゝゝゝゝ行
ゝん意ゝく〳〵ゝと花行ゝと和花の和自新も皆

此和歌は此行ゝまゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

右 [illegible]

新長橋

久かたの空のとゝ橋花ちらてて白雲とゝる丸山うゝ

花なれはよるなれはみなしの山心なかるゝ物と右

久かたのとゝきちらてて白雲とゝる心荒年一年

月関武陵文し時之春の山風ゝ春と云物いを

しらくれ右勝

二百廿四番

左

江あしてゝ春の夜まてゝ海ゝ和紙もの春の紙

右勝

三月はかりなん物も思ふと花見なんてゝ丸ちる乃ゝ丸月

奥親

雅経

[illegible]

右の春年の夜の春丸時夜ゝなんとゝゝ物と

右奇花なんてゝ丸春のゝの月面何のゆゝて

おゝ見物ゝ勝とゝゝ

二百廿五番

左

[illegible]

右勝

題昭

寄雲

[illegible]

[illegible]

右の春ゝ物ゝ丸の島丸春ゝ物の長と春乃曙

左の物春なゝ山ゝまてゝ春ちゝ物ゝ丸ゝ

かゝ[illegible]ゝ物ゝ右奇何とゝゝ春ゝ物ゝ春の春ゝ

長ゝ[illegible]ゝ物ゝ山ゝ春ゝ物ゝ

ゝ[illegible]ゝ長ゝ丸ゝ春ゝ物ゝ

千五百番歌合巻第四　春四　判　尺阿

二百廿六番　左勝

花ゆゑとわるの小山田かへりてを根をたてゆる春の夕風　女房

右

かくしつゝ今一しほやまさるらん春をそなく浦松の風　三宮

たわるの小山田をしてもとゆひ根をたてゆる春の夕風

乃々風心姿詞つきあるかくらんなれ侍り右

千年春をそなく浦の浪春をんしるしなれ侍り

たつゝとゆる心やはたらきやうよまれ侍

くさん言葉のもとゆひをそなるひしゆ

ひてい給ま今ひとしほのまさるらんにいて

とゆかしけれはやたゝむ所をもとめ侍るん

二百廿七番　　たゝ持

的そ山ゑ月のいさよひ　　たゝ長

右

俊人の位とゝきけと定りの山ゑ月のいさよひ　　四宮

たゝ為のうけもあるへ　　ゝ月の海よりこゝ多

かるへ　　也事也右山のゝ月のいさよひ　　ある岩つしおゝく侍へ

きこゑ俊人の位とゝきけとゝ　　ゝつる岩見れ共已不

云侍りの其間暫　　ゝ侍へきやと一ゝ侍

ゝ雲の拾れ共恐多　　ゝ和の河邪居鳥艶

事強不一ゝ庶幾所　　ゝ仍拾とゝく侍ゝや

山世ゝ小書恐惶ゝ

二百廿八番　　たゝ　　前権侍中

右　繪　　忠良

こゝらゝく春のねゝやゝん　　ゝ山ゝ海ゝ花ゝ　　ゝなくに

山ゝゝ桜ゝゝ吉野川ゝゝく春のゝれてゝ川

たゝのゝれはゝ世ゝゝ　　ゝゝ時ゝん　　ゝ心

おゝく侍へ　　ゝ山ゝゝ桜ゝゝ吉野河

岩河ゝゝみゝ侍り　　迦葉高所ゝゝく侍へ

ゝゝゝ

[illegible]

二百廿九番

左　公徳

かつる屑うちはらひ紀貫之　右勝　慈宗

あらしふきちるひぐらしのさくまのこしまの心かをくもうつる屑哉

たかあしくを伯[illegible]や仏越路乃宣旨毎年

酒屑はかあすや伯[illegible]右[illegible]

伯[illegible]や[illegible]合のあ[illegible]ひ[illegible]

二百三十番

左　公徳

春ふかく[illegible]ふかの尺[illegible]の地をおもふ　右勝　通[illegible]

[illegible]

まうてていたし峯のの白雪いちりてを花のかくれん[illegible]

たかをかいうるくいかくく伯を右[illegible]ちりてを花

の歌[illegible]

二百三十一番

左　[illegible]

[illegible]に四人[illegible]に伯宿[illegible]

右　釈阿

うつやまの苗代[illegible]

左　[illegible]

あるじ右兵衛佐殿の遠懐氣にてとる奇瑞氣とや
侍らん但たゞ墨よりふかいつるいつまでとぶこと
おほつるく侍るやたまく判者は西行あるべき
事乃事と例ゆゑて不付勝負や侍らん

二百三十二番　　文覺

左　結　　遠いそこすゑ百乃ふりてまきたしあれもそなりけり

右　　後鳥羽院

みの山野へ乃さてもちるまきたに風よみる紅葉のさてもそ
たゝ遠いそ猶いまの乃といひ右安へのさてとそ花
紅の白雪といつる海河の間せまくさく花結者なるさや
よ侍まと右もゆ一のみ文字ちるまきふとちる

かよりくや侍らん御歌吹もてたゆまとゆ侍し

二百三十三番　　左　持　　源俊

春のよ乃みの紅乃ゆ紅いあてはいとの者のそに知ん

右　　丹後

ゆ乃山乃ゆ也いまそてく記るまきのあ紅みるれ
たゝ右あそく海河いひ一つまそしろくんし
侍り勝方新やうゆ侍べしゆ者持

二百三十四番　　左　　小侍從

ふれそくこの色よりまさるものあ人のいそこそんん

右　結　　越前

吉風い吹よくく〜お吉世山やとよ。ゆうこ川久吉の宮
はあ百たい沼あ〜き撫也 右ハ風祢言る
毎〜ゆくよんこうひ伯宿よたゆ下白和の
吉の字おゆ〜く伯の子の是ハ例として
ゆたれ紙まいあ〜さられとかの給方をもと山る
時ハらうふや也たのいまけるくらや

二百三十四番

左 澄信朝臣

風ふる花のちつよ神ぬまて宮るつ〜花吉ゆ乃宮

右 宗尊親王

梅色ハ宮の吉風沢ま色ゆ
た宮宮ちつ〜花吉ゆの宮とふろん

二百三十五番

左 有家朝臣

ふ〜くこそ伯めれ吉宮ハあ伯い雪とそ深ゆ
とゆる宮の心紙ちくいひるて伯河つひお
かく伯ゆや吉のハんまそひあやく〜く伯ハ
勝劣ゆ〜くや伯ん

二百三十六番

左 通具朝臣

吉世山猫よ花のられぬまい雪のうけち紙ちひ〜ゆと

右

みる雨ゆよ宮猫のさつ〜ま清て緑よすあるれの宮ル
右宮緑よすあるとゆ下白宮と宮くゆもあ
ちくハ伯ゆまた山宮のはけちをうひ白ゆと花乃宮
色花見所ま伯ちくゆやとんし伯いて

二百三十七番　　保季朝臣

左勝

うゑもせぬ花の梢よりはなれて風にわたるさら川の里

右　　家澄朝臣

給人を宿の春風とつてらるゝ花の梢よりこそ桜はなれ　先

左　　うゑもせぬ花の梢をいつるかぜの雪をはらはぬ山ぢ

何とるゝ宣給ふ　　右　　言ふ　　梢おくれて

めといつる雪の心を猶もみぢをひるがへる程を

おくれ給ふと　　左　　風にわたるといつる也

た　　さら川と云給ふハ白河の里歟

さらぬ山ぢや侍し

二百三十八番　　良平

左勝　　彩花抽

花のうゑる山ぢにすみそめし雪の宿とこそ

右　　雅経

みよしのゝやまのもゝとりの声も遠ゝ乃あけぬ

たやすらうる海河よりくだりくる舟人

うゝはやとをるゝ心こゝろ　　右　　こゝろ

のゝ霞れるといつる心をとゝ花やうゝまや侍らん

たゝまるに侍し

二百三十九番　　具親

た

ところゝやゝ紙ゝるれて明り金の殿ようつる明かのゝ空

右勝　　雅経

あてはかりの海やこれをんやまとなれるかぎりあるそくく也
たまかつらの乃なかなかにいかなるかぎりの海はようる
心思ふ及ふくく侍いく右京やまとなれるかぎりの海
ふくく也といつるやとくくきと見侍まと
唐の海やうとこいつるも今きこ〜表まるも見ん
侍まいりや右まちる挑よやまるれ侍へし

二百四十番

たかい

題昭

心ふく書こひをまやを色事のふふきこれねよてもく

右

家長

初秋はこのしのりれかり捨てをれこうちふるとは侍へ
あ前心侍なるる神なく侍めたの斤ふき

を右ふれしの叩の日神よ侍へし

二百四十一番

たかい

女房

ゆきとけやらぬの中の嵐紙なく出るいさらひの月

右

四方

世右ふ為中世ふ世之ふ為

たかい 為ふ為ふらん添生の山をりのく出るん月の
ふを侍ふしよこう侍ま右京根ようよ野
万葉集の心むの色ふしまくるといふくし
侍とよ上の三ふふこう侍ふをん侍一心ふ侍ふを
ふやうふい見侍ふ一ぬふたの山ふ世ふいふこ野
代重歌及侍へし

二百四十二番

右　持

うらなるめ　玄のやうひれ　紅葉紙　ほとゝぎす　独あり

右

伯玄のまつ　ぬしをのさひしさも　今一かの春　ぬ　明かの

た　ほとゝぎす　独あり　すさぶん　海伯　とるく　あり　く

こゝ　伯玄　右　伯玄の　ねいさ　一人の　玄乃　曙　ハ　ほ

ゝ　う　く　伯　ゝ　さ　ひ　さ　ぬ　ま　ま　の　伯　ん　年　の

春　ぬ　山　乃　ぬ　ぬ　ぬ　ま　や　さ　ハ　伯　ん　と　ハ　ん　伯　ま

と　伯玄の　玄乃　曙　い　う　く　ハ　ま　ま　う　よ　伯　ま　と　て　ん

ら　く　ま　て　や　伯　ん

二百四十三番

左　勝

ちつぬ　花の　白ちんよゆん　ゆ　ん　ま　ま　ま　ま　山　紙

お　ま　伯　の

右　勇　家　の

ま　ま　ま　ま　い　よ　ま　て　な　の　花　ぬ　よ　ち　ま　ハ　ま　ち　ま　ん

た　ま　い　ま　ま　て　ま　ま　の　山　紙　ま　ま　ハ　ま　ま　ま　を

て　百　百　ぬ　中　の　ち　り　ま　と　ハ　み　し　伯　ま　を　ハ　ま　い　ま　る

ち　く　伯　ま　や　右　ま　心　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　を

な　の　ま　ま　ま　ま　る　心　伯　て　ま　ま　ま　伯　ま　ね　と　や　み　か

ま　て　や　伯　ん　ま　の　ま　ま　の　山　紙　ち　ま　く　伯　ま　や　く

二百四十四番

左　持

ち　紙　ま

南代　ま　や　つ　る　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

右勝

杜の名はあてそかれぬをうこと　通之

たれこそ行く花めつらしきまゝに行へしたる杜

名はあてそかれぬをうこと　今さらせをめ行る

つ所よりありてたゝく行きとゝるきれ花よまゝ行る人

二百四十五番

た　　公經卿

つくと彩のむら数うひてたゝよふる春雨れ空

右　　釈阿

紙ちをへ位の山の奥ふる雪は花をい

たゝ雪ふ白ふをめ〳〵くくそ行をゆるよつくくと

つくるめるそ雪〳〵行まといとるゆ紙心ゆまて

とゝくふ郭曲よ雪を行まい行〳〵ゆ行下　右勝

ゆ雪行師の逆懐よ行ゆ名の只た曲行るとし

行ゆまゆ〳〵く行を世懐ふ名ハいゆ行ゆ人の懐題

をうひぬゆふく行紙ゆ曲く判者の人数ゆ

雪へて行れい雪行ゆ行ゆ行ゆ行ゆん

二百四十六番

た　　季能卿

弱名あてこ世れ去世紙羽ゆけハ紙ゆ行ゆ恩ゆきゆ題

右勝　　後成卿女

風雅

言葉乃枝のみゆをまゆてゆの人れ風ゆ花を数名る

たこ世の去世をゆとゆる百葉集ゆてゆ初し

侵ゆ行紙下白ゆそ行れ原とゆるゆ行ゆん雪

見のこのよる月よりはしめとして侍り万葉集
にもこの世は山野にはつゝく花のいろとうつるやうに
見侍り右いとゝ春の日はゆるねと雪消はてゝ
くゝ侍るやう大方の歌集をあつめたるやう
なる事をとゝのへ侍するもとゝ春の歌をとり侍る
巨勢朝臣忠貞をたゞしうひねもすきてのゝ
ゝ雪のうちつきて右侍へきるやゆゝしん

二百四十七番

左

ゝ春の日

なりあて勝月朝臣忠貞の那城あきとあるあり

右侍

春風よりとまれる花の那城あきとあるあり

冊版

春風よりとまれる花の那城北山

左

二百四十八番

左侍

あきとゝゝ城をうれしの高とゝゝの堂とゝゝつむ

城あ

右

さゝゝゝゝひのうねよ風吹侍よりくゝ春のう浪
花城をうれしの高とゝゝのつくとゝゝ北侍ぬ
と養お侍よりくゝ右侍よりくゝと高はつく
ゝとゝゝる何いとゝひ孫ゝゝゝゝゝ侍ゝまて
きくゝを侍後代方よりていとゝゝゝよつくと

こそ〳〵なれとおりく〻伺をたの堂家家く
やゆるんとそしゆるとゆ伺し
二百四十九番
左 持
ゆゑ人をたのもしそうとゆるやうやまくも嘆み名ゆ
小侍従
右
家の者も風こそよりもにさそうめ心もちあつれ表
定家朝臣
たかのようつこ名のんあゆ人をとゆるうゆいそうくお
もひもこれ伺まいた右ちく侍るとゆそう伺を
右方の人心もちゆゆ侍ゆ高の表とゆるを勝ようてい
捨くゆ伺ゆ侍ゆ侍ゆし
二百五十番
左
面そうく色こそ表にあひよられ人をあ逸のようもきゆ
澄信朝臣
右 持
通具卿
ちりとゆるる表の山乃さうゆ花風ゆ海紙表ゆうせい
たゆこそ秀ゆとゆるゆ宮く伺ゆし右風ゆ場を表さ
つしせいとゆるゆ心ゆとゆ人をゆ伺のたの表世
表ゆる宮を伺れ世れ表の山れ場ゆまゆりてゆ
伺ゆん
二百五十一番
左 持
有家朝臣
さゆふ勝ようんゆる表れ月ちゆうひゆるゆれ張ゆ
右
家澄卿
むのちるゆゆ風ゆゆりゆて非文ゆ侍宮を伺ゆ

ひとへの雲の間にうつる月をまちてあかしつるかな

月を見てこよひの月のくもりなくてらすらんとおもひやらるる

雅経

二百五十二番

左 俊成

玉葉和歌所の人々に題の歌よみけるとき

保季朝臣

里をこそいとふ身なれど浦せいとかつがれぬるのの山田

あさたいかくれぬ沖の白波のあとにひかれぬ

はすの露よりもなほ多くよる波に

如法寺の法師多くよる波に

雅経

二百五十三番

左 持

ちるかのをかるよ雨ふる花もなほ春のあるかぎり

良平

左

ちらすなあれ春のあれば花の雪

寂蓮

たなびきのもとの春の山ぞ

あらしふく春の雨ぞ

春の雨ぞ

二百五十四番

左 持

昇親

[illegible]

右

つくづくと春よりすぐる野べの雪遠き堂よりひびくなりけり

前大納言

[illegible]

右の詠遠き堂とは[illegible]

二百五十四番

左

つもるべき雪をいそぐらん[illegible]ふるのむらさめ

右 持

[illegible]

顕昭

三宮

[illegible]

左

[illegible]

二百五十五番

左 持

[illegible]

女房

[illegible]

右

[illegible]

忠良

[illegible]

秋たの月は雲の宮ばえんりみく侍りはべ
侍とや侍へし

二百五十七番

左 持

海潮山花は春風吹てくもるさ花は月

右

夕されはすゑ無きまでもくれはてゝ
たのうへを山もはゝ風吹てくもるさ花は

兼宗朝臣

月潮は花の波の春乃なくさはよ侍へし右は花海
歌名を新い流はちんとうるく云てさはられていみく侍を
秋を飛川の山吹海潮の山は月は雖及侍へ

二百五十八番

左 持

めくまてい春はなるをとをうはは花はなるく山川の春

右

通光朝臣

凡海世い春の限乃久方まやうゝを春のうけの春海
左方の下白左方は花は百せうは海面百せうは侍の
月科まとしや侍へうん

二百五十九番

左 勝

春山は弱もたゝさめは岩つゝし心のまゝに花さはよるの

右

公経朝臣

春海はよさもゝ童は春の花春ゝく遠と尺しるすは
左方の岩つゝし尺方は花の春侍へうん右方は花の春

[illegible]

二百六十四番　左

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝ寄よるさゝぬ海のうら波とゆひたるまの松やゝ
乃軍にもとゆうらんの文勝芳をうくるたしなりをし
秋日ーるとすべし

二百六十二番

たゝ 俊

こぬ人をうらんやもうん嘆るなる山の夕暮乃雨

定家卿

右

こまつぬい橋ゆうとゆふよりてちりまりひよろるく春の水
たちかくれ山のうつろふ色濃くゝやすんとふゝ
俊成卿
俊成卿
俊成卿

あたしい堂のうしろやい屋へうんこう殿おしも新こ橋
むというひて海堂の寺は寺方は室と申るを屋後へ
以右唐絵

二百六十六番

左 持

有家卿歌

あつこ小路うら行の山ちきのいなを寄へうかなる
右

駿經

れぬというこう殿て播の国うまは歌をはれれ
あ方はか路の歌をはをもーつ殿とも為くる
おーくうこう行のよう殿持へ

二百六十七番

左 持

俊重卿歌

山ちきの風のうこに頃ろ名記ちきをかをこ名ちとの
右

寛蓮

昨風のさそひをそて為吉御の持まそ吉殿名い海まる
たの風の庭に頃ろ名右乃持まそ寄殿とい
名ろんをのくおーかうにるまあ寄又持と
まへし

二百六十八番

左 持

良平

ちる花の風ねうこんのねのやとう海を吉の山を
右

家長

堂うく殿後名つーと第殿しとへる夢い一和のこうい
右堂ま結へる第殿一和のこうとへるん俊ま海を
たのう海ちまおと吉の山風殿室持へた海なる

二百六十九番　奥親

左

色もうせ花はなびきみゝの人絶ぬすまうきこの海を

右　持　三宮

いとゞ世あせてもうつる心やうかゝのつるを井のつゝまそつゝん

左　可とをくゝ侍るやたゝ言いとゞ世あ

そとゝいつる袖の丸宮やたゝあて叶ても宮ゝ侍ゝ

と未白宣侍へ　まはるとゝゝ

二百七十番　頼昭

左　持

山ゝきのうゝ人ゝ新を結ものたつくゝまあるあ井てゝ丸むゝ

右　陶令

ひゝ人ゝのその山歌うゝとゝきて光故里のゝ人絶ぬすゝん

左　ゝのゝ人ゝのゝ歌ゝを絶ぬたい滴まあゝぬゝゝ出るはあゝても

人ゝのゝ出る中言のゝあゝてもゝ出る袖ゝあゝくゝ侍ゝて

人ゝをゝをゝをゝゝんゝ侍ゝるゝやゝゝみゝ侍ゝや

二百七十一番　女房

左　持

風ふけい花のゝゝゝゝやゝ消ゝゝゝるゝくゝゝゝゝゝ月

右　為家卿

花ゝゝゝゝゝ

ちとせつる河姫よ理なりて行へ仕奉れたよ
なくこゑをみよ月日と過去るなる
さ雨さはのまもりく伴る事也

二百七十二番　左　左大臣

花ちりて春のもとをくる雨に色さへ移ろふ神のうつ
右　通光卿

志の浦せいとゝ色なる山つゝじ花よ越きぬてれ
た奇生さうわ約神のうつる浦心いとくそ
ゆゝし伴また奇の花よ越きと思ふ心ゝやさし
くゆゝし伴の仕奉てのこの越さうわいとあ
ゝ色なるもとまてこの越ゝ及ゝ千ゝ伴ん

たの神の稱書れゝん伴へ

二百七十三番　左　後鳥羽院

野干我
立ゝうゝれ生あゝ花なる心ゝかゝれかゝの
右　釈阿

春ゝれゝ今やさゝゝん蛙なく神なひ川のゆきの花
たゝる心ゝゝる地ゝりゝくゝゝくゝゝ伴
き志の祈無れ歌ゝ色ゝゝ越ゝ千ゝ百百
つゝてゝゝゝの奇ゝゝまて伴ゝる汁心ゝ花伴と
す へ

二百七十四番　左　後鳥羽院

大ゝ千ゝの日新ゝのゝゝて附ゝゝあゝる春ゝのゝゝ風

右

[illegible]

後鳥羽院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二百七十五番

左持

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

二百七十六番

左持

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二百七十七番

花 後

遠の面のうとゝぬるゝ高のまつやれあまりは雲雀あげつゝ

宗尚

右

吉野川さゝつ瀬流を花もあつるゝ所のこゝろ

たゝ雪は遠も離れ秋はゝるゝとゝつる通昭

毎の嶺れ心をまやれあまりはひとりあつゝん海

なゝ雪のうもつきくしくゝ侍るやたゝ吉野海よ

まとてゝゝくるゝ所花の法花といつるゝ様の心花

まもゝんゝ侍つるまやたゝ雀おつるとあゝく侍り花

まゝうて侍るたゝ

二百七十八番

花 持

源俊

とゝとて雪のゝ所ゝるゝ月よゝとあゝ花の白雪

右

通具朝臣

梅花ちるれまゝうゝは雪明ゝん海ゝ雪のゝまゝ月かよ

花月ゝもあゝきゝゝねの白雪ゝと空ゝそゝゝゝし侍れ

右ゝゝゝ雪のゝとゝゝる枝ちゝゝひゝれ花ゝらくのゝと

公業卒朝臣の雪明ゝる心ゝゝゝるゝとゝゝゝゝゝ

ゝとゝゝゝ

二百七十九番

花 持

小侍従

雪の雪ゝ井ゝゝゝゝゝ友のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右

家隆朝臣

嶋ゝゝゝゝ花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゝ雪は雪の雪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

事とはりと見侍れば右京のもとにいとしるき花
のこころをいつしかとまちえたりといふる海も
かくまでうつろふ侍るとて侍りて侍へ

二百八十四番

左 持

春とはつ今をのんつくとねの雲とるるかりうる

澄信朝臣

右

うちわたす雲ぬいあれとうけとる春の花信
春をんあ[illegible]くるんしに侍をたにとの心つくるめ
とはつるかのことをうくるんに侍れ侍るや侍るん

二百八十一番

左

有家朝臣

[illegible]

右 持

[illegible]

家定

[illegible]ひとりの[illegible]ひとりの[illegible]
[illegible]
[illegible]

二百八十二番

左 持

[illegible]

保季朝臣

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]長

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たのもしさをすむ人奉の宮拝宮まゐらん仍二首
二百八十三番　左　勾
良平

あかりかゝやかしの宮よ花ちりて梢まとあらくひさしき
右　三宮

あしたゆ宮の山ゆ花ちりて庭さへ白ゆてのむかは
はれ雲といつる人ゆ海かゝくいかをすさ
むしはやあらしき拂はやゝしいかん君庭さへ白ゆ
ゆとゆゝしなれる拂はいかまを井てのむかは心やを
まりるかはいかまちすゝてはまそやいかゝん
二百八十四番　左　勾
具親

人あまやゆ釣をひかはゆゝ鳴ゆゝつまをとゝつゝ山ゆゝをゝ乃も
右　内大臣

花ちる風何ゝ思ひあらん花ゆへまそ思ひ侍ら
左方人あまやとゝゝるゝゝ海ゆ釣ゝくゝ侍を
右方花ちる風とゝひ何ゝ思ひまゝゝ花
ゆへまそとゝゝる心ゆ思ひ侍ゝ侍ゝ
二百八十五番　左　頭弘
第人ゝ花ゝ折ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ
右　忠良
花ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ
左　花ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ

三四へく侍らんたゝ名を聞とはひ海とのられの
春雨の空に消るかはまこそ見し侍れたの雲もの
桜花咲の花風深まさく侍る千しれ右為勝

二百八十六番

九番　　　

右

なげきなげてはこそなきなれ寄しつゝ花をこそ見るなれと
なり数汁うとしつるんかつゝくこそなこゝ侍れば
はこそなきなれと出つるこゝろ侍まとゝ下句いく
何の事しようとそえん侍まい数花まこそなるべく侍らん

二百八十九番

九

山ざくらをのゝ花をつくと心よとあてなるひとりそ

右侍

うるはしく侍らんと詠るれいつゝきの山乃花と
なるゆく春とゝつる心とゝるく侍やだ所始は
うるはしいとゝとゝろや侍らんとゝ侍

二百九十番

九侍

かりなのゝ春のこゝろ花なるなれ春も雪まへなるの

右

雪なる春の行末を白雪のなるや遠なるなん
右所春のゆく春を白雪なるなるなるなるなるつき
白雪侍とまの白雪とのなるなるつき
のこゝろ侍とゝ侍りなるた所云
二百九十一番

九

春侍

[illegible]

右 俊

[illegible]

定家卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山あゐ染ゆうつくしかりけるかな

二百九十四番

左 俊

小侍従

らるとみるもむなしかりけるかな

右

雅経

限あるまいとの秋をまちてよりけるかな

世つゝひとをみせよあゝしく俗とさのこゝろ

俗人はたゞこゝろひとすてゝとゆるゝ色の字をそせるて

ゐ者下ゝて酒すゝ宮こ俗ゝんのたかいまはりくゝや

俗ゝん

二百九十五番

左 持

澄信朝臣

ゝれゝとせゝ紅波まゝゝらよゝ舟とあてゝと宵ゝゝゝ紅波ゝゝ

右

家隆

東海ゝ春のゝりゝをとゝ秋ゝゝ夏ゝもつけゝゝゝゝの山ゝを

ゝゝ雲ゝ張ゝゝゝゝ

七日 花はなちらでさきなれぬる心をば春のいとをあへぬひとかれ

たかくみえて春はつくしちるものとおもふ人のおくれ侍を

花をみりはきとのひとしてしるや白すくらん紀ひろ

よ侍るん右歌 ゆまある心をとゝる所なし侍るや侍さ

ゐへこうゝや侍るん

二百九十七番

左

とる雲ぬいつく〳〵春のもてみちる花をゆまうすん

右 俤 三宮

あるあ遠るん侍やてさきひつくさのよる事よ侍る 宮

左 ゆきてしみをいひゆまんすんらといつる 羽

くゝひてゝとゆきてを侍るすゝ右 雲 侍る

菓よくる雲よくきさこゝ侍のまさの侍へし

二百九十八番

左 持 良平

物春のあいくみよるとちの紅てをいるよ春ん

右 四方花

春の夕くみを浪のり人物自さゝまや春のうゝ侍ろ

左 はいあいくみよるとちの右くくつひはまく春

乃春よくをつくきあゝきやうよんこ侍のおまて

侍ゝん

二百九十九番

左 奥新

花をちの名も古菓よくゝかいりるくくる紀割れ

右 俤 忠良

[illegible]

[illegible]

心ゝ[illegible]

三百[illegible]

[illegible]

題跋

[illegible]

右猪

[illegible]

[illegible]

[illegible]